

<目標分野> ※該当するものに全て✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防✓
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換✓

<目標内容>

Society5.0を体現した文化スポーツ複合施設「未来体育館」の整備による、持続可能な地域づくりの実現

- 【具体目標】
- ① スポーツ交流人口と経済波及効果の増加（経済波及効果を今後5年間で50%増加）
 - ② 人口減少に適応した市民の健康“幸”づくりへの取組み（医療費抑制を目的とした市民の健康づくり）

<PRポイント>

【Society5.0】ローカル5G・4Kカメラ・AIなどの未来技術により、**利用者データを活かした高付加価値のサービス**を提供。
 【観光消費増加、医療費削減、デジタル教育】**スポーツ団体の合宿や市民の健康増進、スポーツ分野のデジタル教育**など、幅広い利用を促すことで、観光消費額の増加、医療費の削減、スポーツ教育のレベルアップなど多様な効果を創出。

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

- ・矢板市は近隣有名観光地への通過点で、1日をとおして滞在できる観光施設やスポーツ施設が少なく、観光消費が少ない地域。
- ・近年需要の多いスポーツ大会・合宿を確実に取り込み、滞在型観光の実現に向けたインセンティブのある施設環境の整備が必要。
- ・市民の健康増進や子どもの運動の成果を可視化するため、データに基づく健康指導やスポーツ教育が出来る環境が必要。

<総合的な取組内容>

やいた創生未来プラン基本目標
 「来てもらう、住んでもらう、新しい人の流れをつくる」
 ～交流人口、関係人口の創出・拡大～

【具体的事業】

- **矢板市文化スポーツ複合施設「未来体育館」の整備**
 新たなスポーツ大会・合宿や健康づくりの拠点となります。
- **スポーツツーリズムの深化**
 スポーツ大会・合宿の誘致を推進します。
- **観光拠点づくり**
 宿泊施設などの誘致により滞在型観光を進めます。
- **今ある施設への誘客（多機能化・顧客深耕化）**
 施設間の連携により周遊性を高めます。

「未来体育館」を核とした、持続的な地域づくり



複合施設 完成イメージ



市内にある「とちぎフットボールセンター」の敷地内に、**地方創生拠点整備交付金を活用して整備**



地域再生計画



複合施設整備基本計画

<継続的な取組を確保できる体制>

矢板スポーツコミッションが中心となり、事業を推進します。



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
 教育委員会事務局 国体・スポーツ局
- 地方スポーツ推進計画
 矢板市生涯学習推進計画・令和3年4月
- 地方版総合戦略
 やいた創生未来プラン・令和3年3月
- 地方スポーツコミッション
 矢板スポーツコミッション・平成30年4月発足
- ホストタウンの相手先
 ハンガリー



矢板市公式HP



矢板スポーツコミッション

<目標分野> ※該当するものに全て印

<目標内容>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

稼げる地域をつくり、安心して働けるようにする

銚子市総合戦略



新しいつながりを築きひとの流れをつくる

若い世代の希望をかなえ、誰もが活躍できるまちをつくる

地域で連携し、安心して魅力的なまちをつくる

- スポーツ交流人口の増加**
スポーツ教室やスポーツイベント・大会を誘致・開催して交流人口を増やし、地域のスポーツ振興の活発化、スポーツ合宿の誘致を促進する。
- 宿泊観光客数の増加**
銚子市の豊かな自然、食を活かした魅力的な長期滞在型アクティビティモデルを開発し、スポーツツーリストや宿泊観光客数の誘客を促進する。

<PRポイント>

- 野球場、体育館が目の前！！スポーツ施設と一体となったスポーツ合宿に最適な環境を提供
- 銚子市の豊かな自然を活かした魅力的なアクティビティモデルの提供

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

<現状・課題>

- 進む少子高齢化、人口減少に伴い、地域のスポーツ活動の場が減少している。
- 都心部から近いこともあり、観光客は日帰りの割合が多数を占めており、長期滞在型の観光コンテンツを開発する必要がある。

<総合的な取組内容>

銚子市しごと・ひと・まち創生総合戦略
～新しいつながりを築き、ひとの流れをつくる～

【具体的な事業】
スポーツ合宿施設銚子スポーツタウンを拠点としたスポーツツーリズムの促進

- 銚子スポーツタウンを拠点としたスポーツ大会・イベントの開催や合宿誘致の支援
プロチームや地元出身の元プロアスリートと連携して、スポーツ教室など継続的なスポーツ活動を実施し、地域のスポーツ振興、健康増進を図るとともに、魅力的な大会やイベントを開催・誘致し、交流人口の増加を図り、市内経済の活発化へと波及させる。
- 銚子市の魅力的な観光資源を利用したアクティビティを創出
市内事業者と連携して長期滞在型のアクティビティモデルを開発し、スポーツツーリストの誘客、市内周遊の活発化を図る。



産業の活性化・人の流れの創出

<継続的な取組を確保できる体制（図）>
銚子スポーツコミュニティを中心として、銚子スポーツタウンを拠点に事業促進



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：社会教育課スポーツ振興室
- 地方スポーツ推進計画：無し
- 地方版総合戦略：第2期銚子市しごと・ひと・まち総合戦略（令和2年3月策定）
- 地域スポーツコミッション：銚子スポーツコミュニティ（平成26年5月1日設立）
- ホストタウンの相手先：台湾

<目標分野> ※該当するものに全て印

<目標内容>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

「オリパラ・レガシー」として注目が集まる「スケートボードの聖地化」を図り、交流人口と経済的効果を創出

【具体目標】官民一体となった推進組織「スポーツコミッション」が中心となり、スケートボードの国内拠点を活かし、施設の継続利用・愛好者の増加、キラコンテンツの創出、育成の拠点化を図る

<PRポイント>

【屋内施設環境】天候に左右されない**国内最大級の屋内スケートパーク**を最大限に活かすための**仕組みづくり**。

【多様なコンテンツ】瀬波温泉を始め、「城下町」「自然」「食」など地域の観光資源と連携したプラン、合宿・大会パッケージツアーなど、**個別ソフト事業を展開**。

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

むらかみスケートボードコミッション（仮）

日本スケートボーディング
連盟
・指導者・競技団体との連携

村上市スケートパーク
・生涯学習課スポーツ推進室

村上市観光協会
市内観光施設
・宿泊施設・飲食店等

瀬波温泉旅館
協同組合
・瀬波温泉旅館・ホテル

全国の企業との連携

・事業ノウハウの提供・企業版ふるさと納税

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

<現状・課題>

- ・スケートパーク（アリーナ）の利用は市外・県外客が多いが施設利用に留まり、地域経済へ波及する取組ができてない。
- ・現在需要の多い修学旅行の体験施設として、引き続き瀬波温泉を宿泊地として利用いただける受入体制の充実が必要。
- ・スケートボードの聖地に近づけるため、観光やまちづくり、地域経済に波及する仕組み作りが必要。

<総合的な取組内容>

スケートボードの聖地「むらかみ」セカンドプロジェクト

【具体的な事業】

- **むらかみスケートボードコミッションの設立（仕組みづくり）**
恒常的にソフト事業を実施するための仕組みを作ります。
- **クラス別スケートボード教室の開催（愛好者の増加）**
技術に応じた選手育成を行い、パークの継続利用を図ります。
- **市内大会及び国内メジャー大会の開催（キラコンテンツ）**
市外からの参加者や選手家族、観覧者による交流の拡大、地域振興を図るためのコンテンツを創出します。
- **国内・海外からの合宿誘致（育成拠点化）**
隣接する温泉地域を活かしながら、地域全体として、継続的にスケートボード選手を輩出する育成の拠点化を図ります。



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先 教育委員会
- 地方スポーツ推進計画
村上市教育基本計画
・平成29年3月
- 地方版総合戦略
まち・ひと・しごと創生第2期
村上市総合戦略・令和3年3月
- 地域スポーツコミッション
むらかみスケートボードコミッション（仮）
令和4年3月設立予定



地域再生計画



村上市スケートパークHP

<目標分野> ※該当するものに全て印

<目標内容>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

健康づくりとまちづくりの融合による「歩くライフスタイルの推進(とほ活)」による、持続可能な都市の実現

【具体目標】 全人口に占める公共平均利用者数の割合の増加（令和6年度までに0.1%の増）
中心市街地における歩行者数交通1日の増加（令和6年度までに休日3,500人/日の増）

<PRポイント>

- ①【健康づくりとまちづくりの融合】
歩く行動がもたらす、健康とまちへの双方の効果に着目した全市的な戦略とアプリを通した歩く生活の実現
- ②【キャッチコピー「とほ活」の普及】
市民への浸透を図るためのキャッチコピー「とほ活(=富山で歩く生活)」と官民連携による普及啓発の実現

<概要> 計画期間：～令和6年3月31日

<現状・課題>

- ・市民の多くが過度に自動車に依存した生活を送り、自動車を自由に使えない市民にとっては極めて生活しづらいまちとなっている。
- ・人口減少・高齢社会の本格的な到来を控え、平均寿命と健康寿命の乖離が進行し、将来的な社会保障費等の増加が懸念される。
- ・高齢者の外出機会の減少や行動範囲の縮小により、地域経済や活力、コミュニティの喪失が懸念される。

<総合的な取組内容>

「第2期 富山市まち・ひと・しごと総合戦略」基本目標
生活環境の一層の充実を図る
～すべての世代が安心して暮らせるまち～

<具体的事業>

■ 歩くライフスタイル推進事業

市民の歩くライフスタイルへの転換を促し、将来市民が健康で幸福に暮らす活力ある都市の創造に向けて、「とほ活」を通した様々な取り組みにより、SDGsの実現を目指す。



歩く施策の推進
官民の連携



○スマホアプリ「とほ活」の開発 ～グッドデザイン賞2021受賞～



○官民連携による「とほ活」の普及啓発

プロスポーツチームや地元の信用金庫などと連携し、イベントやポイントラリーの開催、従業員の「とほ活」アプリの利用促進などを通して、歩くライフスタイルの普及を推進

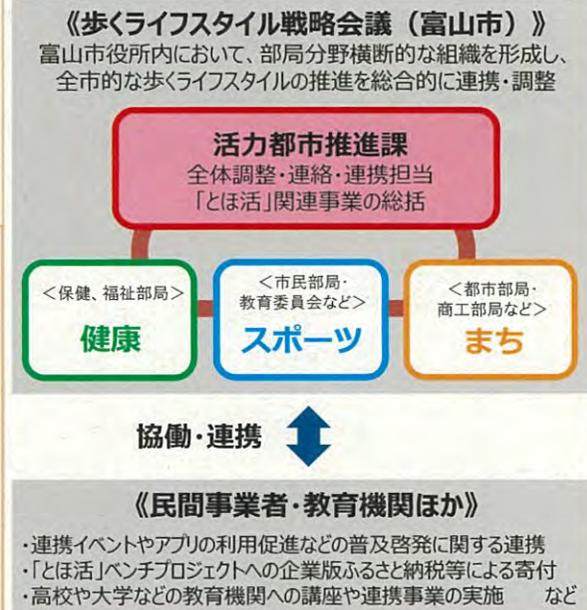


○「とほ活」ベンチプロジェクト事業

企業版ふるさと納税や寄付等を活用し、中心市街地等における主要な歩行動線上の道路や公園、公共施設の近く等に設置し、中心市街地の活性化や外出機会の創出、公共交通の利用促進に寄与



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
市民生活部スポーツ健康課
- 地方スポーツ推進計画
第2次富山市スポーツプラン
- 地方版総合戦略
第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略
- 地域スポーツコミッション：なし
- ホストタウンの相手先：なし

<目標分野> ※該当するものに全て印

<目標内容>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

- ・健康寿命の延伸等による誰もが健康で活躍できるまちの実現
数値目標：令和7年度末までに健康寿命を男性80.1歳、女性84.1歳へ延伸を目指す！（現状：男性79.6歳、女性：83.9歳）
- ・スポーツ交流人口の増加・地域経済の活性化
数値目標：令和7年度末までに年間のスポーツ合宿を30件誘致する！（現状：年間20件前後）
- ・優れた住環境や子育て施策による移住・定住促進につなげ、「ひと」「まち」「しごと」の好循環の確立

<PRポイント>

【スポーツ振興拠点施設を中心とした多様な事業及び地域活性化】

市の「スポーツ・健康の森公園」には、これまで陸上競技場や多目的芝生広場等の屋外施設しか整備されておらず、スポーツ環境が天候に左右されるという問題があった。屋内運動場(KENKO DOME)を建設・活用し、**トップアスリート**による講習会の開催、**高齢者が運動習慣を身に付ける運動教室**の開催や、**スポーツ合宿等の誘致**及び**スポーツ観光**との連携を目指す。

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

- ・富山県は年間の降水日数が多く、雪や雨等の気象条件に左右されるアウトドアスポーツが実施できない時期がある。
- ・天候の良し悪しにより、計画的なスケジュールやメニューでのスポーツの実施が困難である。

<総合的な取組内容>

「ひと・まち・産業が
元気なまち 滑川」

「ひとが元気」

- ・子ども第一主義の継続
- ・誰もが生涯元気で活躍できるまちづくり

滑川市屋内運動場(KENKODOME)



地方創生拠点整備交付金を活用し整備(H30)

「トップアスリート講習会」



宇津木妙子さんによる講習会

「スポーツ・健康づくり推進事業」



高齢者健康づくり教室

「産業が元気」

- ・安心して働くことのできる雇用の場の確保
- ・地域経済が活気に満ちたまち



・スポーツ合宿の誘致
30件/年を目指す



ほたるいか海上観光(4～5月)

「まちが元気」

- ・静かで平和なまちの維持
- ・持続的に発展する交流と賑わいのあるまち

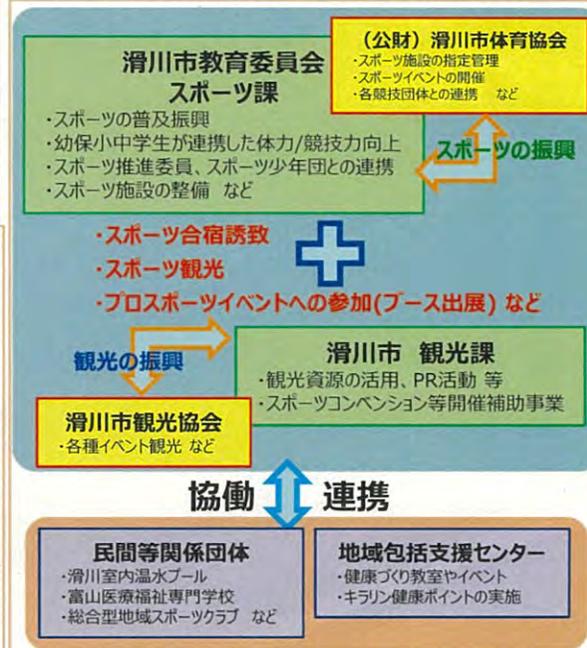


ほたるいかマラソン
市外3,000人参加で交流UP



滑川市

<継続的な取組を確保できる体制(図)>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
滑川市教育委員会 スポーツ課
- 地方スポーツ推進計画
滑川市生涯スポーツプラン (H28～R7)
- 地方版総合戦略
第2期滑川市総合戦略
(第5次滑川市総合計画) 令和3年3月



滑川市公式HP



滑川市総合計画



滑川市生涯スポーツプラン



滑川市イメージアップキャラクター
キラリン & ピッカ

【フォローアップ欄】 令和4年度以降における計画の進捗状況

<目標分野> ※該当するものに全て✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防✓
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換✓

<目標内容>

多世代での総合的な子育て支援として、遊び体験を通じた「子ども健やか心身成長プロジェクト」を実現

【具体的目標】

- ①総合的な子育て支援により市民の転出抑制、移住促進を図る。(2024年度までに社会人口増80人)
- ②子育て世代への健康増進事業の実施により、年間出生数の増加を図る。(2024年度までに300人→308人)
- ③公園全体での運動体験ゾーンとして活用し、2024年度で年間集客12万人を目指し、地域の振興を図る。

<PRポイント>

①【子どもたちが天候に左右されることなく、のびのびと運動できる空間】

⇒高さ約10メートルの巨大ツリーなど「非日常」を体感できる空間を提供し、子どもの運動能力・想像力・精神力を養う。

②【子どもの健やかな成長をバックアップ】

⇒「親子での運動が可能な多目的ルーム」、「子育て相談・託児を行うミーティングルーム」の整備に加え、運動指導士、保育士が常駐し、親子の健康相談、子の成長への悩み相談等子育て世代への情報提供とサービス提供が可能

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

<現状・課題>

- ・雨天や曇天の多い北陸地方特有の天気では、子どもたちが年間を通して身体を動かした遊びができないことに加え、遊びの代替として近隣の大型商業施設へ若い世代が流出し、域内での消費活動も停滞するなどの悪循環が生じている。
- ・市民ニーズの変化、競技人口の減少により遊休状態にある体育施設の有効利用の必要性があった。

<総合的な取組内容>

大規模改修が必要な体育館を、子育て世代の遊び場確保を兼ねた『健康増進施設』として再整備（地方創生拠点整備交付金を活用）し、市外からの交流人口流入を図る。～市内からの転出抑制、移住促進（子育て世代に選んでもらえるまちづくりの展開）～

◎具体的な取組

■「遊びを通じた健康増進」につなげる仕掛け

- ・巨大スロープや「登る」動作により体幹を鍛える遊具の設置
- ・他の市内運動施設との連携・利用促進につなげ、子育て世代の健康増進を確保
- ・スラックラインなど屋外の公園施設を活用した運動遊び体験の実施

■子育て世代への情報・サービス提供の中核・拠点としての取組

- ・子ども総合センターと連携した、親子参加型事業の展開による子育て世代の集客
- ・保護者世代だけでも集まりやすい空間の提供

■地域の賑わい創出の取組

- ・産直マーケットの開催など、世代を超えた交流を図ることができる仕組みの提案

巨大ツリーで木登り気分を味わう 公園施設を活用した屋外体験



託児付きヨガ教室でリフレッシュ 出産後の不安解消(産後ケア事業)

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

総合型地域スポーツクラブ
〔指定管理者〕

- ・市内運動施設との連携
- ・運動を主眼にした自主事業の実施

あそびの森かほつくる

大学研究室

- ・遊びを通じた健康増進支援
- ・ニーズ分析、イベント提案

地元自治会
(小学校区)

- ・特産品の提供や地域住民を講師とした昔あそびのモノづくり体験

かほく市子ども総合センター
(子育て支援課)

- ・親子健康相談や子育て相談など、子育て支援のバックアップ

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
かほく市教育委員会 スポーツ文化課
- 地方スポーツ推進計画
第2期かほく市教育振興基本計画
- 地方版総合戦略
第2期かほく市創生総合戦略推進計画
- 地域スポーツコミッション
なし（R5年度に向けて検討中）
- ホストタウンの相手先
なし
- その他



かほく市HP



あそびの森かほつくるHP

<目標分野> ※該当するものに全て✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

地域観光DMOの設置によるマウンテンスポーツを中心とした通年型マウンテンリゾートとしての誘客できる街づくり

- 【具体目標】
- ① 通年型マウンテンリゾートとして年間観光誘客数100万人。
 - ② アクティビティの更なる充実を図り、施設や雇用を生むサービス開発、特にサマーシーズンのアクティビティや事業開発の推進。
 - ③ マウンテンスポーツ振興による健康づくりと山の楽しさを年間通して村全体で感じられる環境整備の推進

<PRポイント>

- ① 【地域観光DMO】 2023年設立を目指し、野沢温泉村、株式会社野沢温泉（スキー場運営会社）、観光協会、旅館組合、商工会など自治体と民間が一体となって総合戦略の実施主体、事業の受け皿を経営するなど更に官民一体となった地域づくりを進めます。
- ② 【ウェルビーイングビレッジ】 四季を通じて、住民も滞在いただいたお客様も村内の自然、遊び、スポーツ、食事、温泉などにより自然と体を動かし、免疫力を高め、身体も心も元気になる街づくりを進めます。

<概要> 計画期間：～令和12年3月31日

（現状・課題）

- ・野沢温泉村は「温泉とスキーの村」として知られ、多くの村民が主要産業である観光業に従事しているが、冬季観光がメインとなっており、自然・環境を最大限に生かした四季を通じた通年型マウンテンリゾートへの変革が求められている。（観光振興⇔地域振興）
- ・少子高齢化を背景とする生産年齢人口の縮小による担い手不足解消を図り、主要産業における若手育成、担い手拡充の推進が必要。
- ・サマーアクティビティ充実を図り、通年雇用の拡大による定住促進、年間をとおしてスポーツを軸にした観光地域づくり、街づくり推進が必要。

<総合的な取組内容>

野沢温泉村長期振興総合計画（野沢温泉村の将来像）
「胸湧きたち 未来へ歩み続ける 湯の郷・野沢温泉」

【具体的事業】

- 広域観光DMO（野沢温泉スノーリゾート協議会）の設立（仕組みづくり）
 - ・恒常的にソフト事業を実施するための仕組みを作ります。
- マウンテンスポーツ振興（夏季誘客促進）
 - ・サマーゲレンデの活用（夏季トレーニング環境整備、デジタル技術を活用した未来型レッスンや検定システムの構築）、多様なアクティビティ（ヒルクライム、マウンテンバイク、SUP、カヌー、トレイルランニング、トレッキングなど）の充実及び環境整備を図ります。
- ウィンタースポーツ振興（冬季誘客促進）
 - ・国際大会や都府県単位のウィンタースポーツ大会、障がい者スポーツ大会の招致やスキー修学旅行、合宿の誘致を更に進めます。
 - ・インバウンドファミリー層向けのスキー検定や教程の開発を推進します。
- 通期通年型の雇用確保（冬季従事者の活用、観光と農業の一体奨励）
 - ・マウンテンスポーツ振興にスキーコーチなど冬季観光従事者を活用します。
 - ・半農半X施策のひとつとして、冬季観光従事者による夏季農業従事者推進を図ります。
 - ・地元食材を使った食品開発、加工品開発の推進と地産地消の推進を図ります。



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
教育委員会事務局生涯学習係
- 地方スポーツ推進計画
野沢温泉村教育振興基本計画：平成27年
- 地方版総合戦略
地方創生総合戦略：平成28年
第6次野沢温泉村長期振興総合計画：令和2年
- 地域スポーツコミッション
野沢温泉スノーリゾート協議会：令和5年設立予定

<目標分野>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防 ✓
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換 ✓

<目標内容>

- 「**フェンシングのまち沼津**」というブランドを確立し交流人口の拡大による**地域産業の活性化**を目指す。
- 沼津から**金メダリスト**を輩出する という「夢」を持って取り組んでいきます！
- 沼津に**世界大会**を誘致する

<PRポイント>

- ①【日本フェンシング協会との協力体制】・・・日本フェンシング協会と**全国初の包括連携協定**を締結し、中央競技団体である日本フェンシング協会と**協力・連携**しながら事業を継続していく。
- ②【官民連携による取組】・・・**官民連携組織**の「フェンシングのまち沼津推進協議会」が事業の実施主体となり、民間からも資金を集め、ノウハウやアイデアを取り入れた**持続性のある事業**を展開していく。

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

<現状・課題> 「フェンシングのまち」となるためには、**フェンシングの認知拡大と支援層の拡大**が必要。

<総合的な取組内容> フェンシングを「**知る**」、フェンシングに「**関わる**」、フェンシングで「**育てる**」をキーワードに事業展開



<継続的な取組を確保できる体制>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：産業振興部 ウィズスポーツ課
- 地方スポーツ推進計画：沼津市スポーツ推進基本計画
- 地方版総合戦略：第2期沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：フェンシングのまち沼津推進協議会 (令和2年6月10日設立)
- ホストタウンの相手先：カナダ
- その他：フェンシングのまち沼津推進協議会会員数40者 (資料作成時点)

「フェンシングのまちNUMAZU」ホームページ
<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/fencing/>

【フォローアップ欄】 令和4年度以降における計画の進捗状況

<目標分野> ※該当するものに全て✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防✓
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換✓

<目標内容>

オリンピック・レガシーとして地域に**自転車文化を創造**、交流人口の増加により**新たな産業・雇用を誘致**

【具体目標】

※本計画は、まちづくり総合計画の目標1、4に対する取組として実施

- ①国内外から多くのサイクリスト、自転車競技者が訪れ、交流する地域（人が集い活力あふれる産業を育てるまちづくり）
- ②市民の多くが自転車に親しみ、サイクリストを理解し、温かくもてなす地域社会（富士山のように大きな心を持った人づくり）



<PRポイント>

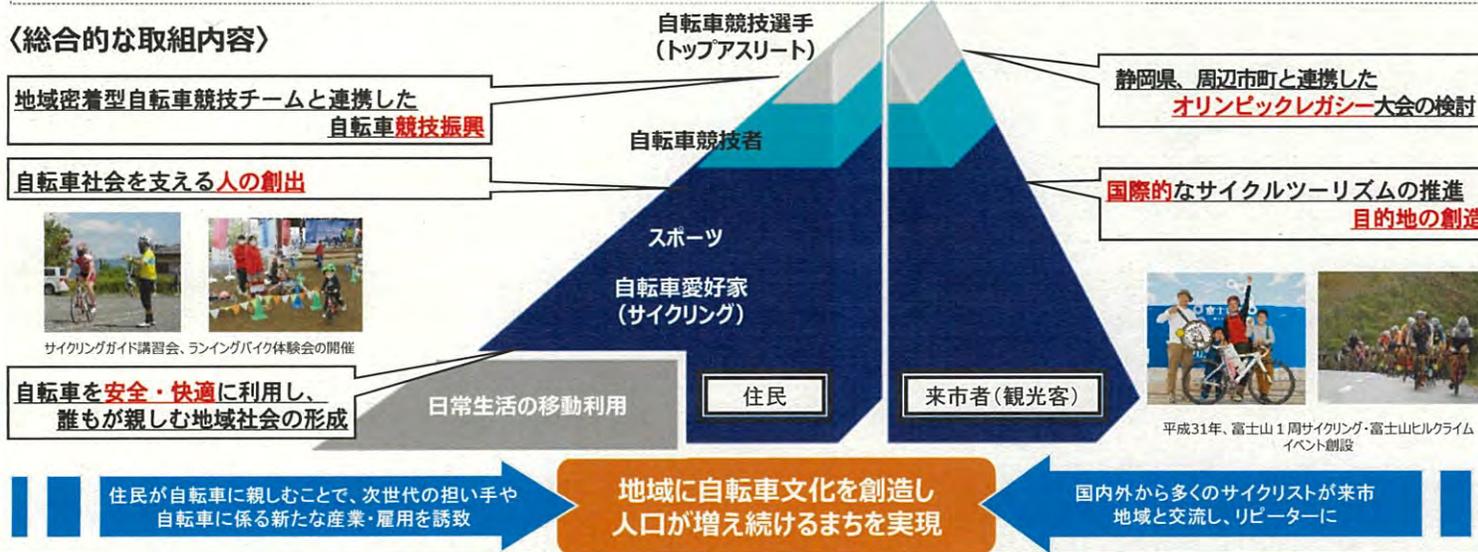
【地域資源】富士山と東京2020大会ロードレースコースを活用した新たなコンテンツ（イベント、ツアー等）の創出。
【自転車の多方面活用】市観光協会・市商工会・市スポーツ協会等が一体となり、**自転車競技の振興**、観光・健康づくりを始めとした**地域の振興**、次世代の**担い手の育成・確保**、新文化を支える**地域社会の形成**など、東京2020大会のレガシーとしてサイクルスポーツのまちづくりを総合的に推進。

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

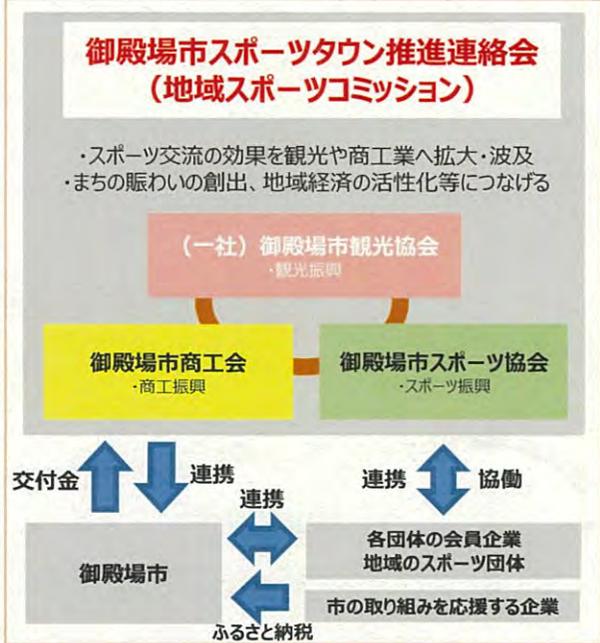
<現状・課題>

- ・御殿場市は、滞留観光の未促進による地域経済の停滞、人口減少による慢性的な労働力の不足といったまちづくりの課題を抱えている。
- ・現在は、富士山の麓、東京2020大会ロードレース会場という環境から多くのサイクリストが訪れるが、地域に自転車の文化（する・観る・支える）が根付いていない。
- ・サイクリストを受入れる環境を整えるとともに、次世代を担う人材の育成・確保し、自転車に係る新たな産業の誘致と更なる観光の促進を図っていくことが重要。

<総合的な取組内容>



<継続的な取組を確保できる体制>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：産業スポーツ部2020オリンピック・パラリンピック課・市民スポーツ課
- 地方版総合戦略：第2期御殿場市まち・ひと・しごと創生総合戦略・令和3年2月
- 地域スポーツコミッション：御殿場市スポーツタウン推進連絡会（平成28年9月発足/令和2年11月スポーツコミッション登録）
- ホストタウンの相手先：イタリア・台湾・韓国



御殿場市公式HP



御殿場市スポーツタウン推進連絡会HP

【フォローアップ欄】令和4年度以降における計画の進捗状況

<目標分野> ※該当するものに全て✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防 ✓
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換 ✓

<目標内容>

富士山・箱根の自然環境、標高の高さ等を活用した「富士山麓のスポーツのまち“すその”」の実現
 【具体目標】 ①スポーツツーリズム事業による経済波及効果の拡大（今後4年間で現状値の1.5倍）
 ②スポーツを目的とした観光交流客数の増加、滞在型観光への転換、地域の魅力発信強化

<PRポイント>

【地理的環境】首都圏から100km圏内のアクセス、富士山・箱根外輪山といった世界に誇る自然環境を活かした「田園未来都市すその」ならではのスポーツツーリズム事業を展開
 【スポーツ×（かける）●●でまちづくり】スポーツ合宿誘致、スポーツイベント開催・誘致、スポーツ医科学実証実験、アスリート食など、スポーツをキーワードに交流人口・関係人口の創出、経済効果の拡大、健康づくりを推進

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

<現状・課題>

- ・富士山麓のスポーツ合宿の地としての認知度向上及び他地域との差別化が必要。
- ・スポーツ合宿の経済波及効果を拡大させるため、宿泊業だけでなく、他業種も含めた仕組みづくりが課題。
- ・陸上以外の合宿誘致、富士山麓や箱根の自然環境を生かしたアウトドアスポーツへの展開といった多角化が必要。

<総合的な取組内容>

第5次裾野市総合計画 「地域資源を活用した魅力あふれるまち」
 ～地域が潤う観光まちづくりの推進！！～

【具体的事業】

■ 裾野式「準高地トレーニング」合宿誘致の推進

- 裾野式①医科学：準高地のトレーニング効果を医科学的に検証した実証実験データを活用したスポーツ合宿誘致を推進。
- 裾野式②アプリ：準高地トレーニングアプリ「S-SPO」の提供
- 裾野式③アスリート飯：大学×実業団と共同で「すその頂飯」を開発。市内飲食店等にて提供。食事面からもサポート！
- 裾野式④「S-Station」：スポーツ愛好家立ち寄りスポット設置
- アウトドアスポーツへの展開
 富士山・箱根の自然環境を生かしたトレラン、トレッキング、サイクリング等を活用した更なる誘致・誘客を図る。



<継続的な取組を確保できる体制（図）>

裾野市スポーツツーリズム推進協議会がスポーツツーリズム事業を推進しています。



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
産業部産業振興課
教育委員会生涯学習課
- 地方スポーツ推進計画
第2期裾野市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略
裾野市第5次総合計画
- 地域スポーツコミッション
裾野市スポーツツーリズム推進協議会(S-SPO)



<目標分野> ※該当するものに全て印

<目標内容>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

～ 産・学・官で連携したスポーツを活用した地域活性化の実現 ～

【具体目標】

- ①本事業での宿泊者数増加 (R3 3,050→ 4,050泊/年) ②本事業での市内企業収入増加 (R3 50,000千円→ 60,000千円/年)
- ③本事業への市民協力者や参加者数増加 (R3 5,000→ 10,000人/年) ④大学生が「まちづくり」・「地域企業」との交流数増加 (R3 75→ 110人/年)

<PRポイント>

- 【ワンストップ】会場、対戦相手、配宿、大会運営等の手配が完了
- 【スポーツ弁当】市スポーツ栄養士監修のスポーツに適した地元食材の弁当の提供
- 【観光】豊富な観光資源を持つ市の強みを生かした各種オプションツアーの提供

<概要> 計画期間：～令和5年(2023年)3月31日

<現状・課題>

- ・御前崎市は全国でも有数の日照時間が長い地域であり、多くのスポーツ施設を有している。
- ・合併後17年で約4,500人減少(12.5%減)、特に若年人口の減少が課題。魅力ある地域づくりや働く場の提供が必要。
- ・観光客数も減少しているため、交流・関係人口の拡大が必要。

<総合的な取組内容>

「魅力ある発信・交流づくり」(第2期総合戦略)

～市の魅力を十分に発揮し、交流・関係人口を創出し、新たな人流をつくる～

<具体的事業>

【ワンストップ事業】

- ・合宿、大会、練習試合等の誘致・手配
- ・プロチームの合宿等誘致・手配(サッカー、陸上等)
- ・スポーツ食の開発・提供(昼食・夕食、ドリンク等)

【その他事業】

- ・ニュースポーツの発掘・活用(フットゴルフ、アルティメット等)
- ・観光オプションツアーの拡大
- ・地元プロアスリートを活用しての指導プログラム検討(2022年予定)
- ・地元大学のフィールドワークへの協力



天然芝・2019RWC南アフリカ代表チーム使用



OSP主催サッカー大会



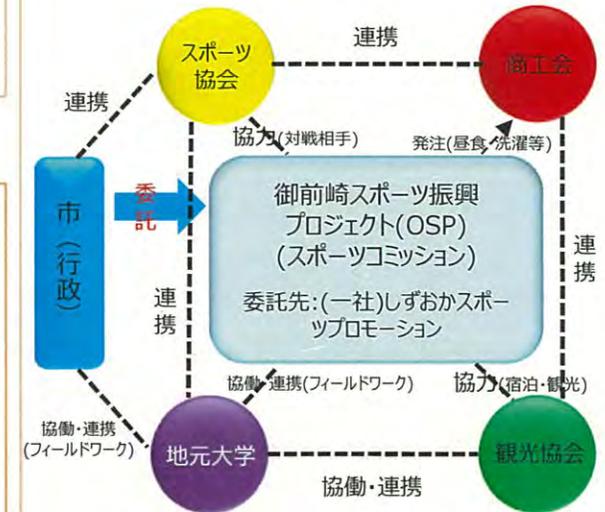
NEWスポーツのフットゴルフ(市内ゴルフ場)



2019RWC公認チームキャンプ地(南アフリカ代表受入)

<継続的な取組を確保できる体制(図)>

ALL御前崎で御前崎スポーツ振興プロジェクトを推進します。



※委託費は企業版ふるさと納税を活用、今後は自走化を検討

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
教育委員会社会教育課(スポーツ振興政策)
(公財)御前崎市振興公社(施設管理運営)
- 地方版総合戦略
御前崎市第2期総合戦略(2020年4月)
- 地域スポーツコミッション
御前崎スポーツ振興プロジェクト(2018年6月)
- ホストタウンの相手先 なし
- その他
2019RWC 南アフリカ・ジョージアの公認チームキャンプ地



＜目標分野＞ ※該当するものに全て印

＜目標内容＞

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

- 1 西尾の魅力を生かして**楽しく継続して健康づくりに取り組む**ことのできる仕組みを構築する！
- 2 スポーツ大会やツアーに市外からの参加を呼びかけ、関係人口の創出・拡大を図り、**将来的な移住者を増加**させる！
- 3 民間消費を市内に呼び込み**経済循環率を向上**させる！

＜PRポイント＞

- スポーツ都市宣言**に基づき、スポーツを核としたまちづくり、健康づくりを推進する。
- フルマラソンの開催**（ポピュレーションアプローチ）や**健康ツーリズム**（ハイリスクアプローチ）により市民の健康づくりを促すとともに、地元商工・観光団体と連携し、観光資源や特産品のPRを行い市内消費の増進、関係人口の創出・拡大を図る。
- デンソーエアービーズ**とホームタウンパートナー協定を締結し、市を挙げてバレーボールを盛り上げていく中で、市民の一体感の醸成、地域のスポーツ振興、市の知名度向上を図る。

＜概要＞ 計画期間：～令和5年3月31日

＜現状・課題＞ 西尾市では高齢化率が25%を超えており、人生100年時代を見据えて、**健康づくりを意識していく事**が求められている。本市の標準化死亡比をみると生活習慣病に起因する疾患が高く、**ハイリスク者に対する健康づくりの支援と、市民に対する生活習慣病予防の習慣づけ**が課題となっている。一方、本市はプロスポーツチームとホームタウンパートナー協定を結んでおり、**市民がスポーツに親しみやすい環境**が整っている。

＜総合的な取組内容＞ ※地方創生推進交付金を活用

- スポーツ都市宣言** ⇒ 「スポーツで元気になるまち西尾」を実現するため、スポーツ都市宣言を実施。
⇒ 市民の健康づくり、地域の活性化や一体感の醸成、スポーツ施設の再編等、スポーツを核としたまちづくりを推進。

○ポピュレーション・アプローチ
（低リスク層：運動習慣の定着）

フルマラソン大会をきっかけとした健康づくり

運動習慣の意識付けや健康づくりのまちをPRするためフルマラソン大会を開催。



事業で活用する
西尾の地域資源！



西尾の抹茶 吉良温泉



NIOSHIO MARATHON 色産うなぎ

○ハイリスク・アプローチ
（高リスク層：健康状態の改善）

にしお健康ツーリズム

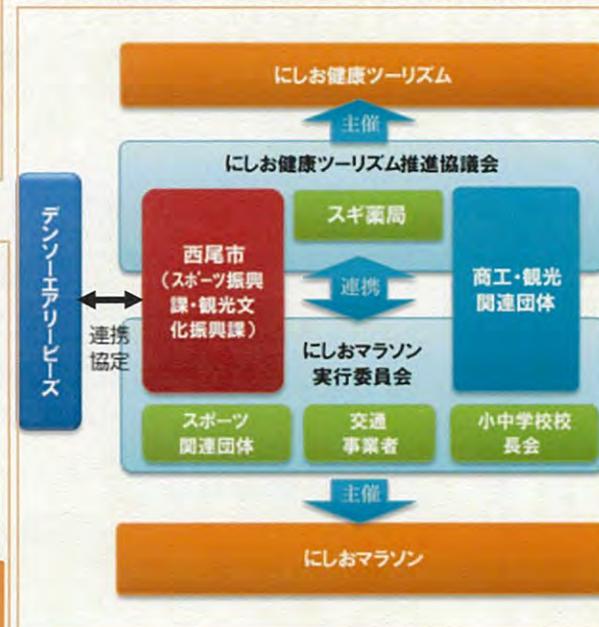
企業と連携し、健康上のリスクのある人を対象に、市内の温泉や食の資源を活用した健康プログラムを開発。プログラムを組み込んだツアーを販売し、健康づくりへの行動変容を促し、最終的にはフルマラソンの参加・完走を目指す。

○バレーボール×まちづくり

デンソーエアービーズとホームタウンパートナー協定を締結

総合体育館観客席の増設等により、試合会場確保・集客能力を拡大する。観光資源や特産品のPRも実施する。エアービーズは市のイベントへの出演や地元小中学生対象のバレーボール教室も実施。

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：
交流共創部スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：
西尾市スポーツ推進計画(H31.3)
- 地方版総合戦略：
第2期西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略(R3.3)
- 地域スポーツコミッション：なし
- ホストタウンの相手先：なし
- その他：
スポーツまちづくりビジョン2040(策定中)
デンソーエアービーズとホームタウンパートナー協定
スギ薬局と包括連携協定
スポーツ都市宣言(R3.4)



西尾市公式HP



にしお
マラソンHP

<目標分野> ※該当するものに全て✔

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✔
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防 ✔
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換 ✔

<目標内容>

- ① スポーツをテーマにまちの賑わいを創出することにより、市内外の交流人口の増加につなげる。
- ② 甲子園地域を「スポーツ関連ビジネスの聖地」としてブランド力を高めることで、将来的には定住人口減少の度合いを緩めることを目指す。

<PRポイント>

【スポーツをテーマにしたまちの賑わいの創出】 スポーツ関連資源を紹介するエリアPR媒体の発行やにぎわい創出イベントの実施

【スポーツ関連ビジネスの聖地】 豊富なスポーツ資源を生かし、スポーツ関連ビジネスが展開しやすい環境づくりを推進

豊富なスポーツインフラ

阪神甲子園球場、ひょうご西宮アイスアリーナ、甲子園海浜公園があり、BBQエリアやサーファーエリアの他、武庫川の河川敷はランニングやサイクリングの環境が整う

盛んなスポーツ活動

多くのプロ・実業団チームがある他、トップアスリートによる学校訪問や指導者講習会の活動を行う「アスレチックリエゾン西宮」等が存在

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日 ※これ以降も取り組みとしては継続する予定。

<現状・課題>

- ・野球シーズンを含む1～9月に対して、開催時以外の10～12月は閑散としている。
- ・市内に拠点を置くプロ・実業団チームの選手は、ビジネスの経験や知識がない場合があり、引退後のセカンドキャリアに課題がある。

<総合的な取組内容>

地域のスポーツ資源を生かした日常の暮らしにスポーツ・レジャーを取り入れた健康で豊かなライフスタイルを、「甲子園スタイル」として提案。

【具体的事業】※地方創生交付金も活用し以下の事業を実施

- ・プラットフォーム事業
(西宮スポーツアカデミー、事業者交流会の開催)
多様なスポーツ関連ビジネスを生み出す基盤づくりを進める。
- ・賑わい創出事業
市民のスポーツ参画意欲を高めるとともに、年間を通して市内外からの交流人口の増加を目指す。
- ・情報発信事業
参画企業の広報媒体やSNS等を活用した情報発信を行い、来街者の増加へつなげる。



プラットフォーム事業
西宮スポーツアカデミーグループワークの様子



賑わい創出事業
甲子園エンジョイラン



甲子園スタイル ホームページ



情報発信事業
エリア情報誌「甲子園スタイルガイド」



情報発信事業
Instagramフォトコンテスト告知画像



KOSHIEN.STYLE

甲子園スタイル Instagram

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

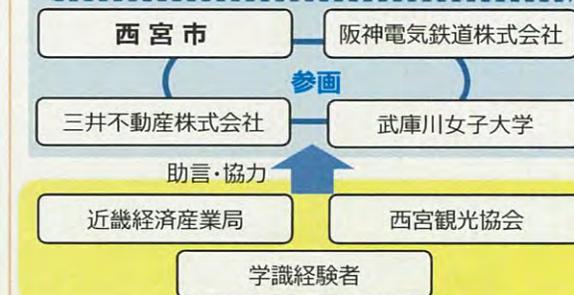
スポーツを核とした 甲子園エリア活性化推進協議会

◎プラットフォーム事業

- ・西宮スポーツアカデミー
- ・事業者交流会

◎賑わい創出事業

◎情報発信事業



※将来的な自立・自走化を目指す。

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：
産業文化局文化スポーツ部スポーツ推進課
- 地方スポーツ推進計画：
西宮市スポーツ推進計画(後期) 平成31年3月
- 地方版総合戦略：
第5次西宮市総合計画 令和元年11月
- 地域スポーツコミッション：
スポーツを核とした甲子園エリア活性化推進協議会 令和元年10月
- ホストタウンの相手先：なし
- その他：なし

<目標分野> ※該当するものに全て印

<目標内容>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

「グラウンド・ゴルフの聖地」「ウォーキングリゾートの町」としての地位を確立させて、各国とスポーツツーリズムの相互推進を図る。併せて、これらのスポーツを通じて町民の健康を増進し、全世代が生き生きと暮らす「生涯活躍のまち」を実現する。



<PRポイント>

【町の資源】グラウンド・ゴルフの発祥地／全日本ノルディック・ウォーク連盟公認コース第1号

- ☞グラウンド・ゴルフやウォーキングの特長を各国と共有し、それぞれの開催する大会に参加するなどして交流を図る。
- ☞グラウンド・ゴルフやウォーキングによって町民の健康寿命を延伸し、医療費や介護給付費を抑制する。

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

<現状・課題>

- ・町内の二つの温泉「はわい温泉」「東郷温泉」の宿泊人口が低迷。インバウンドを促進する必要がある。
- ・要介護・要支援認定者の増加に伴い、生活習慣病・フレイル予防対策を強化する必要がある。
- ・WMG2021関西のグラウンド・ゴルフ競技開催地に決定、韓国の社団法人済州オルレと「友情の道」協定締結

<総合的な取組内容>

2つのシンボルスポーツを軸に海外への競技普及と地域住民の運動機会確保を促進

・グラウンド・ゴルフ

国際グラウンド・ゴルフ連盟（IGGF）と連携し、海外グラウンド・ゴルフ協会の設立を支援



大会相互参加で
インバウンド促進

・ウォーキング

・済州オルレと共同で海外広報を展開
・地域住民向けのウォーキング教室の開催



■インバウンド促進

スポーツ資源で人を呼び込み
温泉地も活性化



■健康増進

「健幸」ポイント事業とも連携して
町民の健康度改善を啓発

スポーツツーリズムの推進と
生涯活躍のまちの実現！

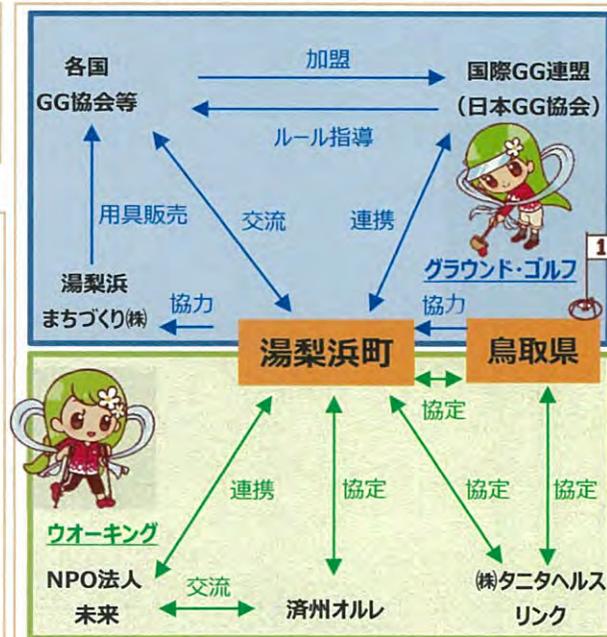
<鳥取県湯梨浜町「グラウンド・ゴルフ」と「ウォーキング」>

<https://www.youtube.com/channel/UCQBtQzpYdVEUu-UjoVC01Q>

動画をチェック！



<継続的な取組を確保できる体制>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
生涯学習・人権推進課、健康推進課
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略
第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略
(2020年3月23日策定)
- 地域スポーツコミッション：なし
- ホストタウンの相手先：なし
- その他
国際グラウンド・ゴルフ連盟（IGGF）
(2019年5月24日設立)



湯梨浜町HP



IGGF

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

「ソフトテニス」を地域のシンボルスポーツに位置づけ「ソフトテニスの拠点」を形成し、スポーツと地域住民の多様な関りを創出することによる地域活性化と、スポーツを通じた関係・交流人口の拡大による経済活性化を実現し、町民が満足感、幸福感を実感できるまちを実現する。

<PRポイント>

「ソフトテニス」・・・本町を拠点に国内外で活躍する日本初の地域密着型クラブチーム「どんぐり北広島」は、チームを応援する地域住民とチームが日々の交流を通じて相互に「やりがい・生きがい」を創出しており、スポーツによる地域の活性化が実現されている。また、全国から多くの選手が合宿・大会に訪れ交流人口の拡大も図られている。
「きたひろスポーツ」(通称：きたスポ)・・・これまでの体育の概念にとらわれない幅広い身体活動を「きたひろスポーツ」と位置づけることで町民誰もが日々の生活を通じてスポーツとの多様な関りを実感し、幸福感、満足感を感じる町づくりに取り組んでいる。

<概要> 計画期間：～令和4年3月31日

<現状・課題>

- ・北広島町としての一体感の欠如、「する」スポーツ以外の「みる」「ささえる」スポーツといった要素への対応が不足している。
- ・入込観光客数の減少により、地域産業が衰退しており、新たな人の流れを創出する具体的な取り組みが必要である。

<総合的な取組内容>

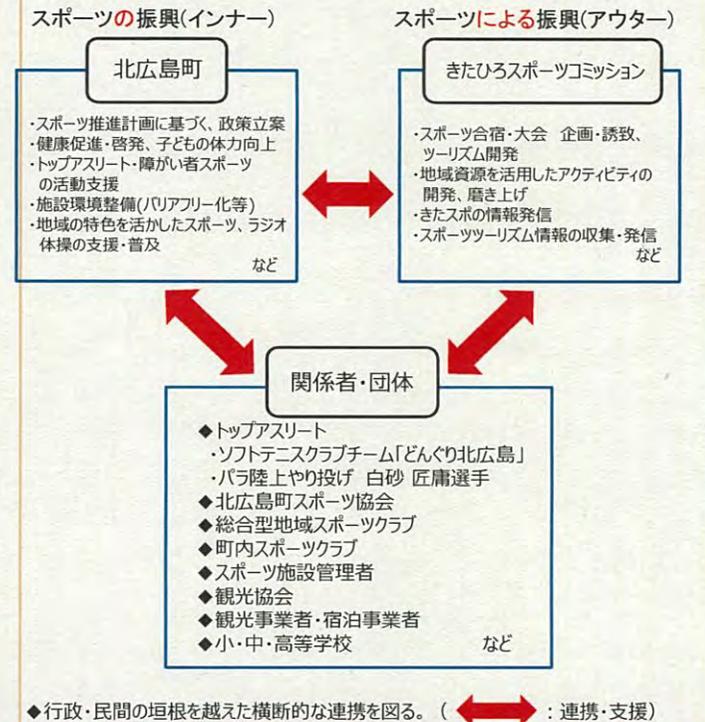
「第2期 北広島町スポーツ推進計画」

◆目指す姿◆ 「きたひろスポーツ」を通じて幸福感・満足感を感じられる北広島町 ～誰もが、住みたい・住んで良かった・住み続けたいまちの実現～
きたひろスポーツ＝「スポーツを通じた楽しさ・喜び・幸せを感じる身体活動」



【フォローアップ欄】 令和4年度における計画の進捗状況

<継続的な取組を確保できる体制>



各種基礎データ

- ・スポーツ部局の所属先：首長部局内・まちづくり推進課
- ・地方スポーツ推進計画：有・独自計画・第2期スポーツ推進計画
- ・地方版総合戦略：有
- ・地域スポーツコミッション：きたひろスポーツコミッション
- ・令和3年3月
- ・ホストタウンの相手先：ドミニカ共和国

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

プログラムの対象を一部の健康志向の高い市民に限定せず、20歳以上の市民を対象に幅広く実施することで、「美と健康」のまちづくりを実現する。

- 【具体目標】①運動習慣の定着化
②運動機能の改善



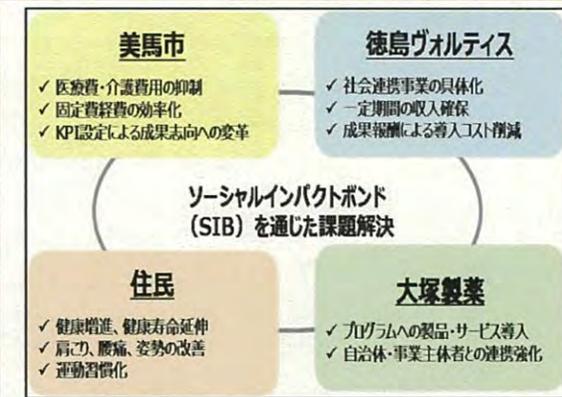
医療費・介護給付費の抑制

<PRポイント>

【美と健康】のまちづくり
 ◎ SIB※の手法を採用する事で、最少の経費で最大の効果を挙げることに取り組んでいる点
 ◎ プログラムに参加する事で、運動機能の改善のみならずコミュニティの形成やコミュニケーションにより心身ともに改善が図られる点

※ SIB(Social Impact Bond)…行政の成果運動型支払い契約と民間資金の活用を組み合わせた官民連携手法の一つ

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



<概要> 計画期間：～令和6年3月31日

【現状・課題】健康や体を動かすことに興味がない・無関心な人たち「無関心層」にどうやって「興味を持ち」「参加してもらうか」、様々なアプローチが必要。また、運動習慣を継続するための、機会の提供が必要。

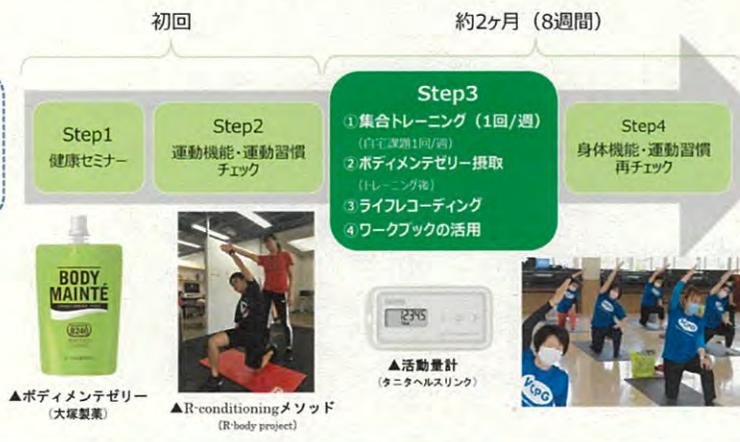
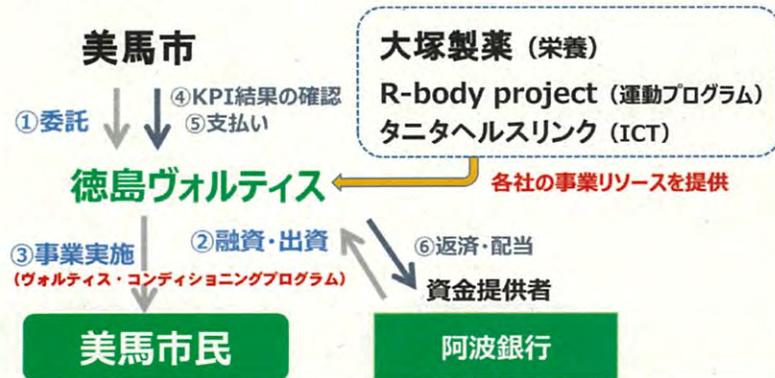
<総合的な取組内容>

美馬市、徳島ヴォルティス、大塚製薬の連携協定のもと、SIBの手法を活用しつつ、関連各社の事業ノウハウを結集して事業を展開！

<ヴォルティス・コンディショニングプログラム（運動×栄養×ICT）>

徳島ヴォルティスコーチによる8週間の運動プログラムと栄養補給、ICTの活用を組み合わせたプログラムを実施！

<美馬市版SIB スキーム図>



プログラム修了後の継続的な取組み

修了後のOB・OG会
 開催例：ヴォルティスの試合前にグラウンドでコンディショニングプログラムを実施、登山、運動会、クロスカントリー等

・定期的な開催による**運動習慣の定着**
 ・継続することによる**運動機能の改善**

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：教育委員会地域学習推進課
- 地方スポーツ推進計画：無
- 地方版総合戦略：第3次美馬市総合計画
- 地域スポーツコミッション：無
- ホストタウンの相手先：無

美馬市HP
 総合計画

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防 ✓
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

既存の保健福祉センター「アイル」と周辺施設の一体的な活用による拠点力の強化、交流人口の増加と賑わい創出

- ① サッカー場を整備し、アイルをクラブハウスとして周辺施設と一体的に活用した際の経済効果（令和元年度比で+505百万円）
- ② アイルの市外利用者（令和元年度比で+9.1万人）
- ③ 九州大会以上のサッカー大会誘致数（令和元年度比で+25大会）

<PRポイント>

【アイル資源磨き】 ～「健康」を理念とした「スポーツ」、「医療」、「温泉」の一体的活用による特色ある地域交流拠点へ～

天然温泉と温水プールを有する保健福祉センター「アイル」と隣接する都市公園牛津総合公園、周辺にある宿泊施設、医療機関等の地域資源を一体的に活用し、アイル周辺エリア全体の価値向上と機能強化を図る。

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

【現状・課題】

- ・本市のスポーツ施設は多目的施設が大半で、交流人口拡大や地域活性化につながる公式大会が開催できる施設がない
- ・本市への来訪者は主にイベント開催時等に限られてしまっており、常時人を呼べるコンテンツが不足している
- ・本市へは日帰り客が大半を占め、宿泊者が少ない

<総合的な取組内容>

アイル周辺エリアを市民・スポーツ・観光の交流拠点として再整備し、誰もがスポーツを楽しみながら健康づくりができるまちへ

- ▶ アイルの隣接地に公式大会の開催要件を満たした人工芝2面のサッカーグラウンドを整備
- ▶ アイルをプールや天然温泉、クラブハウスの機能を有した保健福祉センターへリニューアル
- ▶ スポーツ×天然温泉×メディカルの連携によるこれまでにない先進的なヘルスケアモデルの構築

地方創生拠点整備交付金
JFAサッカー施設整備助成事業助成金を活用

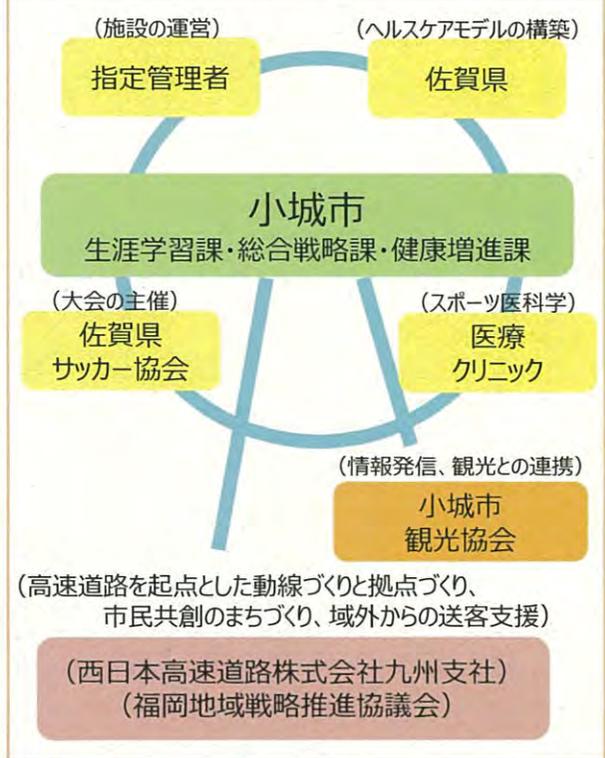


地域再生計画



- 賑わいの創出
- 交流人口の増加
- 域内消費の増加
- 健康増進・怪我予防
- 教育・生涯学習

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：教育委員会生涯学習課
- 地方スポーツ推進計画：小城市スポーツ推進計画 平成28年3月
- 地方版総合戦略：第2期まち・ひと・しごと創生小城市総合戦略 令和2年3月
- 地域スポーツコミッション：-
- ホストタウンの相手先：-



<目標分野>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

地元プロスポーツチームの魅力を生かした活力あるまちを目指す！（喜入地域の活性化）

- ① ファン・サポーターや大会参加者等による交流・関係人口の拡大やにぎわい創出
- ② 地域住民等のスポーツ振興や健康増進

<PRポイント>

- ①【新たな交流拠点施設】チームの練習場としてだけでなく、各種大会の開催や地域住民の一般利用やサッカー教室等の開催など地域に開かれた施設とする。
- ②【官民連携での地域活性化のモデル】施設の整備支援や施設と地域の結び付きを深める取組に企業版ふるさと納税を活用するなど、民間企業や地元団体等と連携して地域活性化に取り組む。

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日（企業版ふるさと納税適用期限）

<現状・課題>

- ・鹿児島市喜入地域は、本市南部に位置し、人口減少傾向にあることから、地域活力の維持・推進を図る必要がある。
- ・共に行政課題を解決するまちづくりのパートナーとして、本市はこれまでもチームの喫緊の課題であった練習場確保の支援（市施設の優先利用）を行ってきたが、芝養生期やスポーツ大会・キャンプ受入時期等は練習場確保が困難であった。

<総合的な取組内容>

鹿児島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進プロジェクト（地域再生計画）

- ・まちの魅力を「みがく」事業（鹿児島オリジナルの魅力向上）

<具体的な事業>

チーム力強化や
練習見学の実施



各種イベント
開催や施設開放



チーム関係者の
地域内居住等



周辺施設と連携
した地域浸透



喜入地域の活性化

- ① 交流・関係人口の拡大
- ② スポーツ振興、健康増進
- ③ 地域経済の活性化

鹿児島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略 <http://www.city.kagoshima.lg.jp/kikakuzaisei/kikaku/sousei/2021senryakukaitei2021.html>

【フォローアップ欄】令和4年度以降における計画の進捗状況

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

関係団体

- ① 鹿児島ユナイテッド F C
- ② 県スポーツ振興課
- ③ 県・市サッカー協会

市スポーツ課

連携・協力

喜入地域

- ① 市喜入支所
- ② 喜入盛り上げ隊、商工会等
- ③ マリンピア喜入、グリーンファーム

各種基礎データ

- スポーツ関係の所管：観光交流局観光交流部スポーツ課
（市長事務部局内）
- 国体関係の所管：観光交流局国体推進部
（市長事務部局内）
- 学校体育の所管：教育委員会事務局教育部保健体育課
（教育委員会内）
- 地方スポーツ推進計画：鹿児島市スポーツ推進計画（H29.3）
- 地方版総合戦略：鹿児島市まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン・総合戦略（R3.3改定）
- ホストタウンの相手先・・・南アフリカ共和国



市ホームページ

<目標分野> ※該当するものに全て印

<目標内容>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

- 1 保存・継承 空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求し、礼節を重んじる精神性が正しく次世代へ継承
 - 2 普及・啓発 環境変化を的確に捉えた施策の推進により、世界の空手家が「空手発祥の地・沖縄」を認識
 - 3 振興・発展 空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地・沖縄」が確立、空手による産業振興
- 【成果目標】県外・海外からの空手関係者来訪数 10,500人（2022年度）

<PRポイント>

- ①【沖縄空手世界大会の定期開催等を通じた国際交流】…世界大会や空手の日記念演武祭等の世界レベルの大会や国際的なイベントの実施
(令和4年は第2回沖縄空手世界大会・第1回沖縄空手少年少女世界大会及び空手一斉演武のギネス更新を予定)
- ②【空手を活用した産業の創出・振興】…空手を組み込んだ体験型観光プログラムや商品等の開発支援

<概要> 計画期間：沖縄空手振興ビジョン（2018年度～2037年度）ロードマップ第1期（2018年度～2022年度）

<現状・課題>

現状 沖縄を発祥の地とする空手は、世界に1億3,000万人の愛好者がいると言われており、空手の体験ツーリズムが盛んになっているとともに、世界に向けた普及が進展し、国際交流も活発。
課題 指導者及び後継者の育成、道場や空手関係団体の運営強化、認知度の向上、空手愛好家の受入体制の強化、空手関連産業という新たな沖縄型産業の創出等。

<総合的な取組内容>

■空手を軸としたマーケティング戦略の構築

「空手関連産業」の創出を図るため、空手を組み込んだ体験型観光プログラム商品等の開発を支援

- ・空手を目的とした交流人口の増加
- ・観光産業や商工業等関連産業への波及効果

→ 空手が沖縄経済を成長させる新エンジンに！



空手の日記念演武

空手の魅力の向上・発信

関連産業の消費拡大

■空手の魅力を伝える演武会等の開催

(県外) 沖縄空手の指導者等を国内外に派遣し、現地でのセミナー等を開催

(県内) 世界レベルの大会の開催や沖縄空手の活用ニーズを有する団体へ指導者を派遣し技術指導等を実施



セミナーの様子（ドイツ）

県内外における継続的な普及促進

※内閣府の沖縄振興特別推進交付金を活用

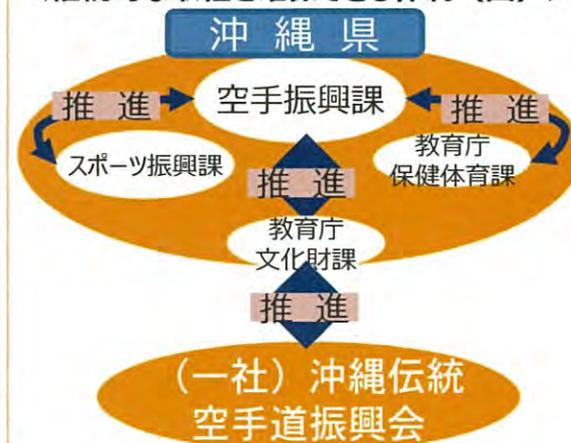
世界大会



一斉演武



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：文化観光スポーツ部
- 地方スポーツ推進計画：沖縄県スポーツ推進計画（平成25年3月）
- 地方版総合戦略：沖縄21世紀ビジョンゆがふしまづくり計画（令和2年3月）
- 地域スポーツコミッション：スポーツコミッション沖縄（2015から本格稼働）
- ホストタウンの相手先：0
- その他：



沖縄空手振興
ビジョンロードマップ



沖縄空手
振興ビジョン

<目標分野>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- ・国内外からの観光客や観戦者を対象にスポーツと観光を融合したスポーツツーリズムを推進する。目標値:コンテンツ数 (15)
- ・海外からのスポーツキャンプ・合宿の受入体制を構築し、充実化を図る。目標値:海外スポーツ団体の受入数 (4団体)
- ・スポーツと地域資源を掛け合わせた商品開発やサービス開発を行う事業者を支援する。目標値:新たにスポーツ関連ビジネスに取り組む事業者数 (15事業者)

<PRポイント>

- ①【スポーツコミッションの多角化戦略】…デジタル(DX)化による施設予約の効率化を図り、スポーツ交流及び体験等のイベント開催への利便性を向上させ、スポーツツーリズムによる交流人口の増加を図る
- ②【東京2020オリパラのレガシーを継承した海外合宿受入】…事前合宿を受け入れたノウハウを市内の事業者やスポーツ団体等へレガシーとして共有し、海外のスポーツチームを受け入れる体制の基盤を強化する
- ③【スポーツ関連ビジネスの発掘・育成】…地域の金融機関や各支援機関と連携し、スポーツに関連する商品開発やサービス提供を行う事業者や起業家を支援する

<概要> 計画期間：～令和5年3月31日

<現状・課題>

- ① スポーツ施設利用者及びスポーツファンに対し、中心市街地の事業者への誘客の取り組みが弱い
- ② 海外の代表チームの事前合宿受け入れ等の経験をいかにして継承していくか。(受入ノウハウ、海外チームの要望に沿った環境整備、その他有形無形を問わず事業実績のレガシー化を図ることが課題)

<総合的な取組内容>

☆スポーツコンベンションシティ2.0
(成長期: 2012年～2020年)
ホームタウン支援、オリパラホストタウン・事前合宿受入、スポーツツーリズム等

☆スポーツコンベンションシティ1.0
(創成期: 1996年～2011年)
スポーツ環境整備、プロ野球キャンプ受入等

スポーツコンベンションシティ3.0 (発展期: 2021年～)

- ① スポーツコミッションの多角化戦略 (デジタル化推進含む)
- ② 東京2020レガシーを継承した海外合宿受入
- ③ スポーツ関連ビジネスの発掘・育成等



デジタル(DX)化による施設予約の効率化等※1



沖縄アリーナ供用開始 (合宿受入開始)

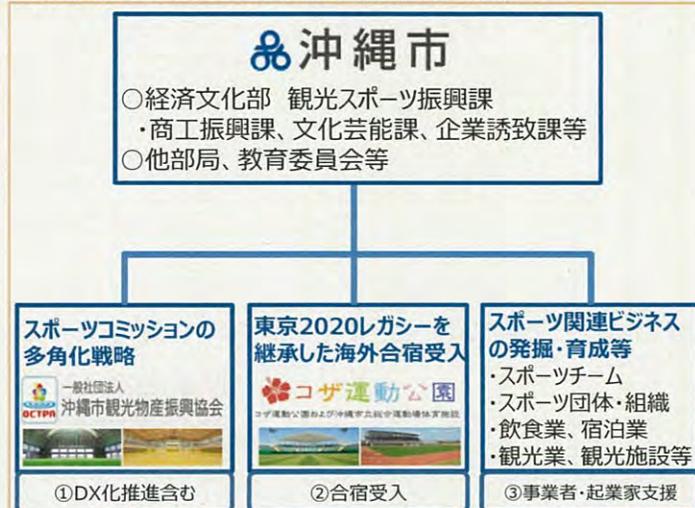


コラボレーションによる新商品開発等※2

- ① スポーツによるまちづくり・地域活性化活動支援事業 (スポーツ庁) ※1
- ② 地方創生応援税制 (企業版ふるさと納税) (内閣官房) ※2



<継続的な取組を確保できる体制 (図) >



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：経済文化部観光スポーツ振興課 (首長部局内)
- 地方スポーツ推進計画：スポーツコンベンションシティ宣言 (平成8年9月24日)、沖縄市スポーツ推進計画 (平成26年3月)
- 地方版総合戦略：第5次沖縄市総合計画前期基本計画・第2期沖縄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (令和3年4月1日)
- 地域スポーツコミッション：一般社団法人沖縄市観光物産振興協会 (平成26年4月1日)
- ホストタウンの相手先：ニュージーランド (空手競技)
- 東京2020オリンピック事前キャンプ協定締結による相手先：フランス (男子バレーボール競技)